令和８年度全国学力・学習状況調査の結果について

１　調査の概要

⑴　目的（文部科学省のねらい）

ア　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

ウ　ア、イの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

⑵　調査実施日

教科に関する調査（筆記） （小学校：国語・算数）（中学校：国語・数学）	令和８年４月23日（木）
教科に関する調査（CBT[1]） （中学校：英語「読むこと」「書くこと」「聞くこと」）	令和８年４月20日（月）
（中学校：英語「話すこと」）	令和８年４月28日（火）
質問調査（小学校、中学校）	令和８年４月24日（金）～５月８日（金）のうち１日

⑶　吉田町の実施学校数及び実施児童生徒数

ア　小学校

３校（住吉小学校・中央小学校・自彊小学校）　児童数200人（第６学年）

イ　中学校

１校（吉田中学校）　生徒数213人（第３学年）

⑷　調査内容

ア　教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

イ　質問調査

㋐　児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）

㋑　学校に対する調査（指導方法に関する取組や教育条件の整備の状況等）

２　調査結果の概要

⑴　教科に関する調査

小・中学校ともに、各教科の平均正答率（中学校英語は平均IRTスコア[2]）が、県・全国の平均を下回った。個々の問題では、次の点に課題が見られた。

・体積などの基本的な意味を理解すること

・学んだ知識や技能を使い、理由や根拠を示して自分の考えを説明すること

一方で、次のような問題では、県または全国の平均正答率を上回った。

・話の構成や表現の工夫を捉えること

・必要な情報を読み取ること

・数量やデータの意味を捉えること

これらは、町が育成を目指している「情報活用能力」に関わるものである。

また、正答数の分布を見ると、上位層が少なく下位層が多い傾向にあり、一部の児童生徒に限らず、全体が県よりやや低い方に寄っている。

⑵　質問調査

「自分で考えて課題に取り組んだ」「ICT機器を使って情報を整理できると思う」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに県・全国を大きく上回った。さらに本町では、これらに肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率等が高い傾向が見られた。自ら学ぼうとする姿勢と、ICTを活用して学ぶ力は、本町の児童生徒の大きな強みである。一方、国語・英語の学習に対する意識や、小学校の生活習慣・学習習慣・読書に関する項目には課題が見られた。

[1] CBT（Computer Based Testing）とは、コンピューター上での試験方式のこと。

３　吉田町の学力に対する調査結果

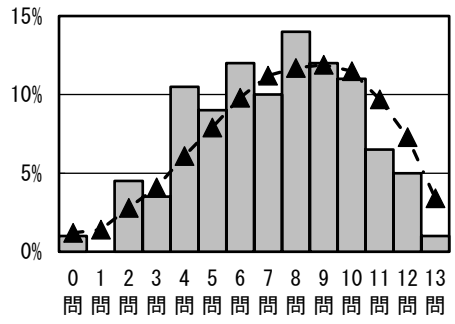
⑴　平均正答率の静岡県・全国との比較

学年	教科	吉田町	静岡県	差	全国	差
小６	国語	55.6	59.6	−4.0	60.9	−5.3
	算数	52.1	56.1	−4.0	56.4	−4.3
中３	国語	59.3	64.8	−5.5	63.9	−4.6
	数学	55.1	58.8	−3.7	57.0	−1.9
	英語（IRT[2]）	464	513	−49	499	−35

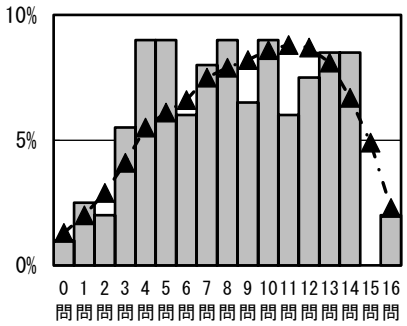
⑵　正答数に対する児童生徒の割合

吉田町教育委員会　静岡県（公立）

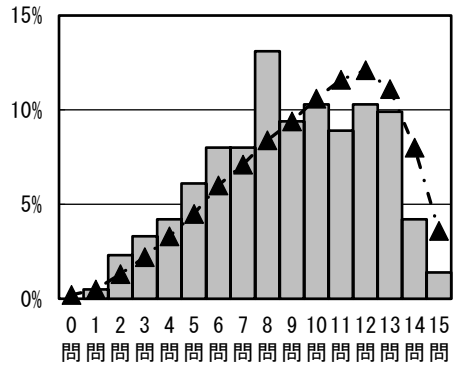
小学校国語



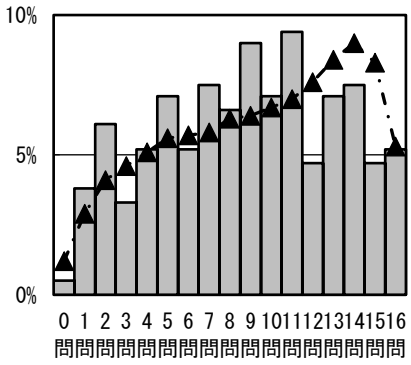
小学校算数



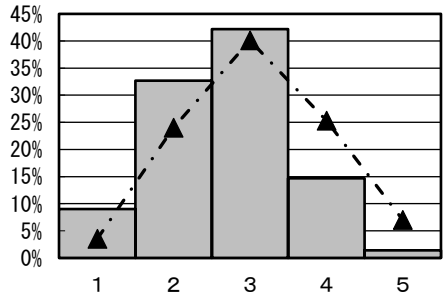
中学校国語



中学校数学



中学校英語（IRT バンド[3]）



[3] IRT バンドとは、 IRT スコアを１～５の５段階に区切ったもので、３を基準のバンドとして５が最も高いバンドとなる。
IRT スコア・ IRT バンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。（「令和 8 年度全国学力・学習状況調査「中学校英語」 IRT を用いた結果返却について」参照）

[2] IRT とは、正解・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論で、IRT スコアは、項目反応理論に基づいて正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準とした得点で表すものである。

教科による違いはあるもの、県と比べて正答数の多い児童生徒の割合が低い傾向がみられた。中学校英語では、IRTバンド１・２に該当する生徒の割合が県よりも高く、４・５の割合が少なかった。

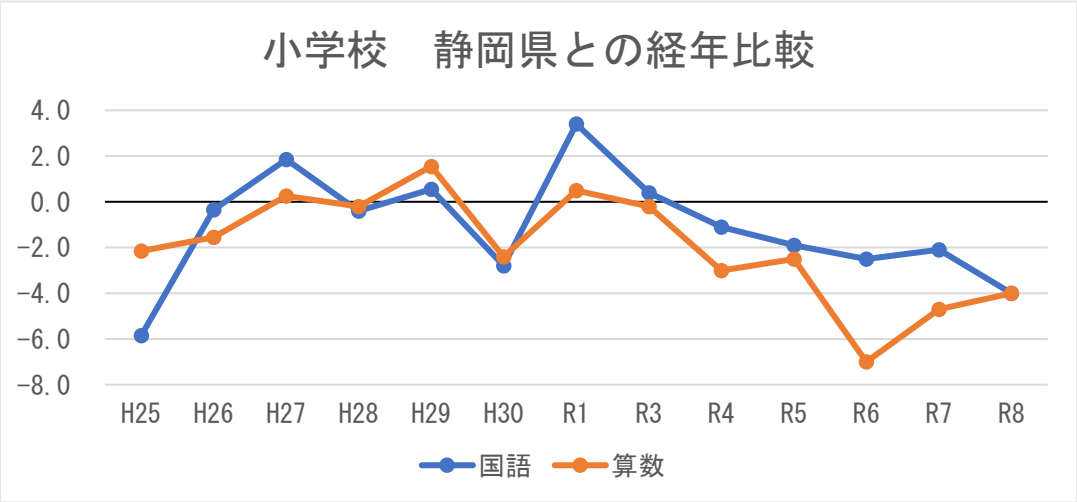
一人一人の理解やつまずきを丁寧に確かめ、基礎的・基本的な内容を学び直したり、理解を深める課題に取り組んだりするなど、それぞれの学習状況に応じて力を伸ばす学習を充実させることが大切である。

⑶　平均正答率の経年比較：県との差（ポイント）

ア　小学校

※　平成30年度までの結果は、国語A・国語B及び算数A・算数Bを足して平均を出し「国語」「算数」の平均正答率を算出

教科	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4	R5	R6	R7	R8
国語	-5.9	-0.3	1.8	-0.4	0.6	-2.8	3.4	0.4	-1.1	-1.9	-2.5	-2.1	-4.0
算数	-2.2	-1.6	0.3	-0.2	1.6	-2.4	0.5	-0.2	-3.0	-2.5	-7.0	-4.7	-4.0

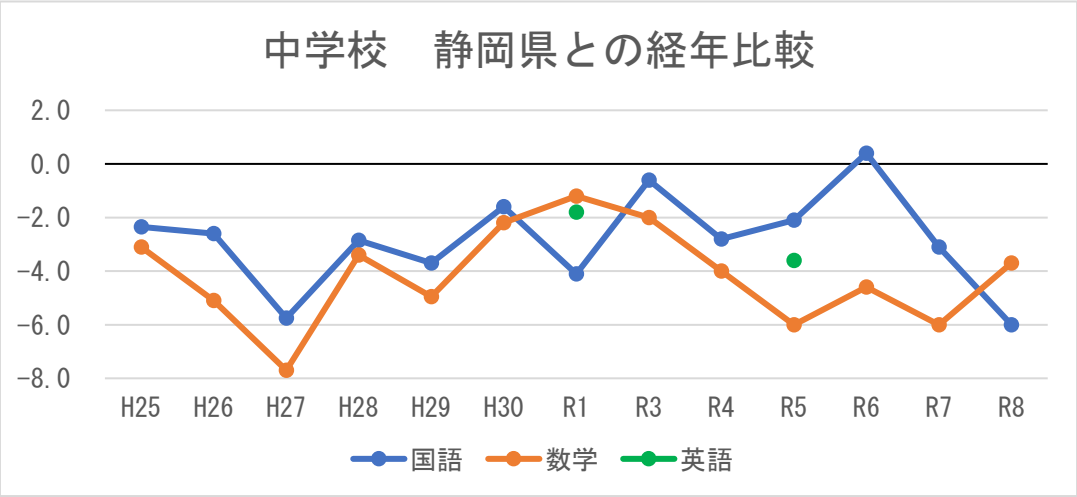


イ　中学校

※　平成30年度までの結果は、国語A・国語B及び数学A・数学Bを足して平均を出し「国語」「数学」の平均正答率を算出

教科	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4	R5	R6	R7	R8
国語	-2.4	-2.6	-5.8	-2.9	-3.7	-1.6	-4.1	-0.6	-2.8	-2.1	0.4	-3.1	-5.5
数学	-3.1	-5.1	-7.7	-3.4	-5.0	-2.2	-1.2	-2.0	-4.0	-6.0	-4.6	-6.0	-3.7
英語							-1.8			-3.6			※1

※令和８年度はIRTスコア　　※１「-49」



小学校国語は、令和４年度以降、県との差が少しずつ広がり、本年度は－4.0ポイントとなった。算数は、令和６年度（－7.0）から差が縮まりつつあるが、依然として県を下回っている。

中学校国語は、令和６年度に県を上回ったものの、本年度は－5.5ポイントと差が広がった。数学は、令和７年度（－6.0）から差が縮まった。英語は、本年度からIRTスコアで示されるため、過去の結果と単純に比べることはできないが、県を下回っている。

⑷　県または全国の平均正答率を上回った主な問題

科目	問題番号	正答率（%）			問題の概要	出題の趣旨
		吉田町	県	全国		
国語(小)	１一	71.5	71.3	73.9	【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように構成を考えることができるかどうかをみる
国語(小)	１二⑵	62.5	62.2	63.2	【動画の一部】の太線囲みの部分の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる
国語(中)	２四	54.9	55.3	52.7	話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる
算数(小)	４⑵	79.5	77.8	78.1	昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く	示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる
算数(小)	４⑷	74.5	73.0	74.9	帯グラフから、「いっしょに話ができたこと」の割合が約何%かを選ぶ	帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる
数学(中)	９⑴	55.7	49.3	46.0	全校生徒の睡眠時間の度数分布表において、最小の階級から６時間以上７時間未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる
英語(中)	７	72.6	75.5	72.4	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる

話の構成や表現の工夫を捉えること、話合いを踏まえて考えを書くこと、必要な情報を読み取ること、数量やデータの意味を捉えることなどで、県または全国の平均正答率を上回る問題が見られた。これらは、町が育成を目指してきた、情報を整理し、考え、伝える力に関わるものであり、今後の学習でもこうした良さを生かしていく。

※ 掲載した問題には、県または全国のいずれかの正答率を上回ったものを含む。

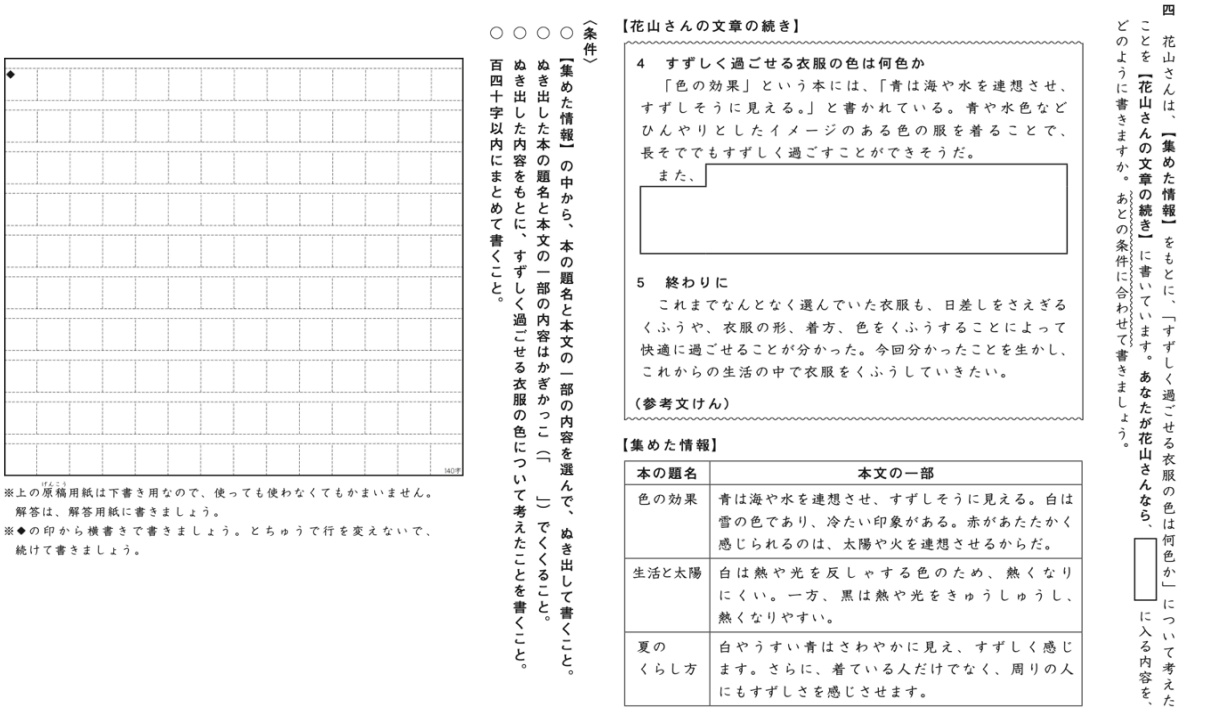
⑸　特に課題が見られた問題

【小学校国語】

問題番号	正答率（%）			問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国		
２一	50.0	59.0	57.9	花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる
２四	27.5	34.0	33.5	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

問題番号２四

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題



四　花山さんは、【集めた情報】をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。あなたが花山さんなら、□に入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

【花山さんの文章の続き】

4　すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そでででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、□

5　終わりに

これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

（参考文けん）

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

〈条件〉

○　【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。

○　ぬき出した本の題名と本文の一部の内容はかぎかっこ（「　」）でくくること。

○　ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。

○　百四十字以内にまとめて書くこと。

◆

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から横書きで書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

【小学校国語：改善に向けて】

文章の構成を考えることや、必要な情報を引用して自分の考えを伝えることに課題が見られた。伝えたいことと、その理由や事例との関係を整理し、相手に分かりやすく伝える力を育むことが重要である。

そのため、必要な情報を選び、出典を示すとともに、引用した内容と自分の考えを区別して書く学習が大切になる。また、ICT などを活用して考えを共有し、互いの意見を参考に文章を見直すことを通して、根拠を明らかにして表現する力を付けていく。

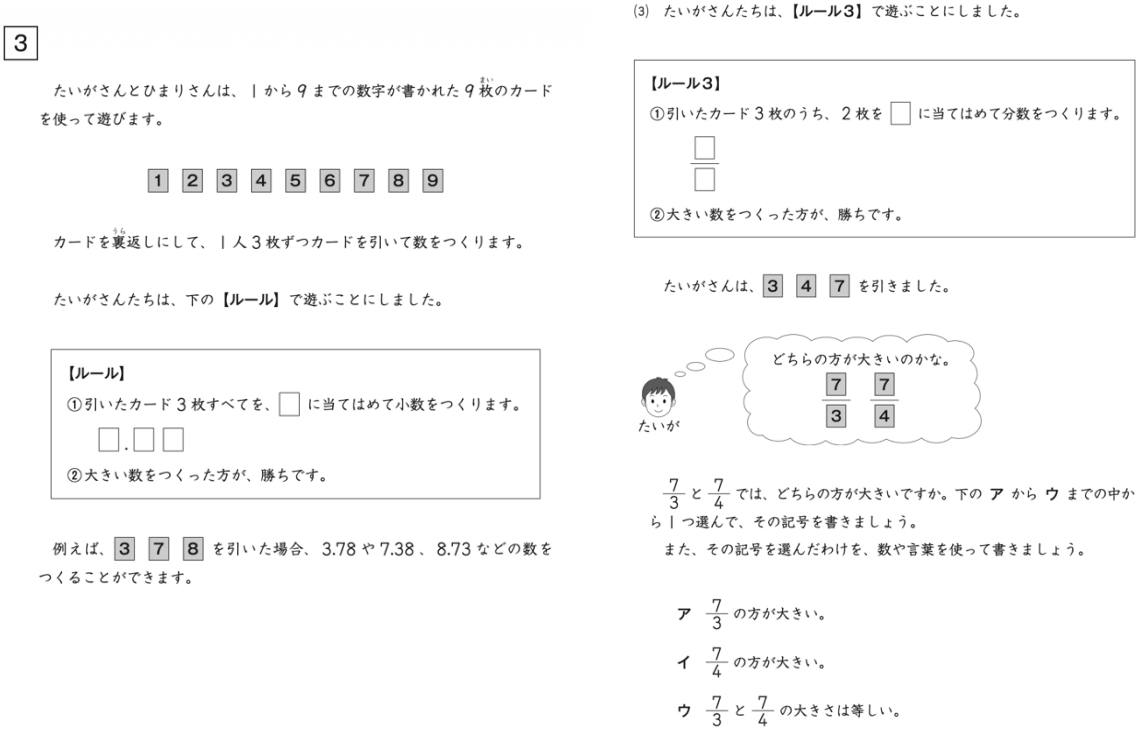
こうした力を他教科の学習や日常生活でも発揮できるよう、学んだことを使って説明したり、考えを伝え合ったりする機会を大切にする。

【小学校算数】

問題番号	正答率（%）			問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国		
1(3)	34.0	41.9	40.1	１立方センチメートルの立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く	体積の意味について理解しているかどうかをみる
3(3)	35.5	45.6	44.0	７／３と７／４のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる

問題番号３(3)

異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題



3

たいがさんとひまりさんは、1から9までの数字が書かれた9枚のカードを使って遊びます。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

カードを裏返しにして、1人3枚ずつカードを引いて数をつくります。

たいがさんたちは、下の【ルール】で遊ぶことにしました。

【ルール】
①引いたカード3枚すべてを、□に当てはめて小数をつくります。
□.□□
②大きい数をつくった方が、勝ちです。

例えば、3 7 8 を引いた場合、3.78 や 7.38 、8.73 などの数をつくることができます。

(3) たいがさんたちは、【ルール3】で遊ぶことにしました。

【ルール3】
①引いたカード3枚のうち、2枚を□に当てはめて分数をつくります。
□/□
②大きい数をつくった方が、勝ちです。

たいがさんは、3 4 7 を引きました。

たいが：どちらの方が大きいのかな。 7/3 7/4

$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ では、どちらの方が大きいですか。下の **ア** から **ウ** までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。
また、その記号を選んだわけを、数や言葉を使って書きましょう。

ア $\frac{7}{3}$ の方が大きい。
イ $\frac{7}{4}$ の方が大きい。
ウ $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ の大きさは等しい。

【小学校算数：改善に向けて】

体積の基本的な意味を理解することや、分数の大小を判断した理由を説明することに課題が見られた。数や量の意味を確かめ、図や式、言葉を結び付けて考え、説明する力を育むことが重要である。

そのため、具体物や図を用いて、体積を単位となる立方体の個数として捉えたり、分数の大きさを比べたりする学習が大切である。また、ICT などを活用して多様な考え方を共有し、共通点や違いを確かめることを通して、理解を深めていく。

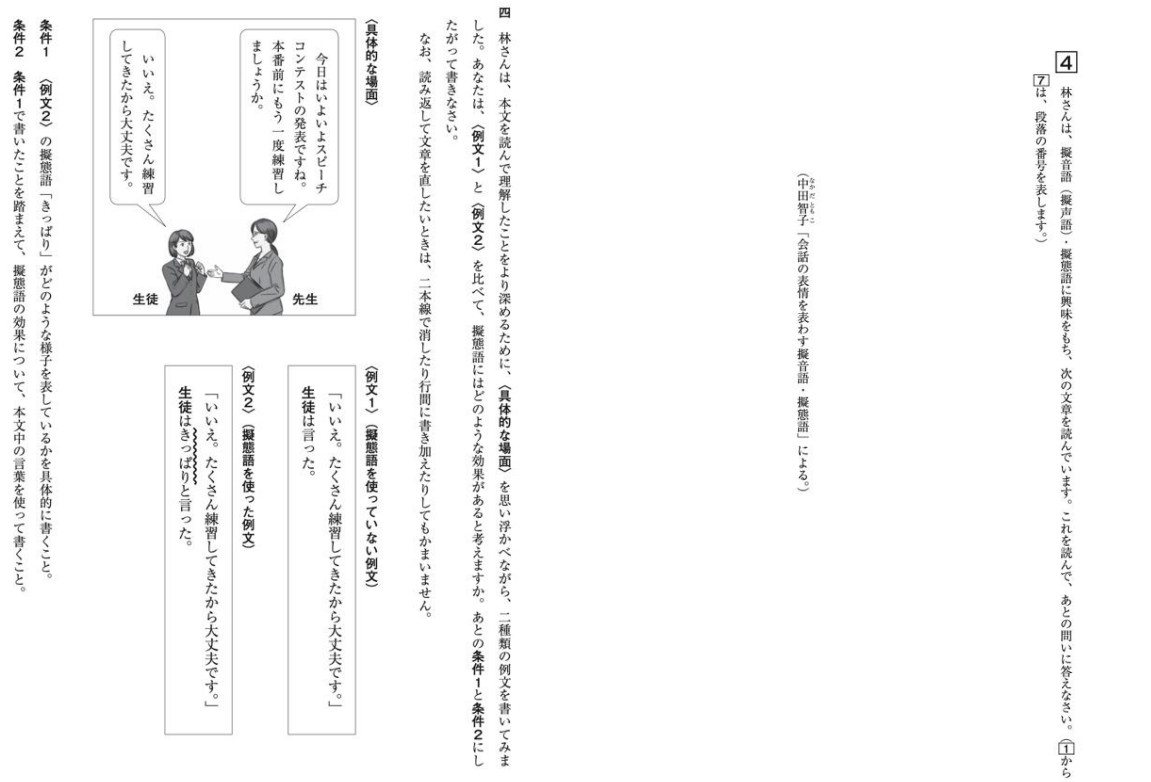
日常生活でも、大きさや量を比べたり、見積もったりする機会を大切にし、学んだことを使う経験を通して、算数の意味やよさを実感できるようにする。

【中学校国語】

問題番号	正答率（%）			問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国		
３四	38.5	45.3	45.0	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる
４四	34.7	40.3	38.9	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる

問題番号４四

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる問題



4 林さんは、擬音語・擬声語・擬態語に興味をもち、次の文章を読んでいます。これを読んで、あとの問いに答えなさい。[1]から[7]は、段落の番号を表します。

（中田智子「会話の表情を表わす擬音語・擬態語」による。）

四 林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、**〈具体的な場面〉**を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、**〈例文1〉**と**〈例文2〉**を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈具体的な場面〉

〈例文1〉（擬態語を使っていない例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文2〉（擬態語を使った例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

条件1 **〈例文2〉**の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。

条件2 **条件1**で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。

【中学校国語：改善に向けて】

文章中の言葉を根拠に表現の効果を説明することや、読み手の助言を踏まえて文章の良い点や改善点を見いだすことに課題が見られた。言葉の使い方に着目して内容を読み取り、自分の考えや表現を再構成する力を育むことが重要である。

そのため、表現の異なる文章を比較し、言葉の違いによって伝わる様子や印象がどう変わるかを考える学習が大切になる。また、ICTなどを活用して文章を共有し、読み手の意見を参考に、伝えたいことが明確になるよう書き直す活動を通して、表現する力を付けていく。

日常の読書や対話でも、どの言葉からそう考えたのかを確かめたり、相手に伝わる表現を考えたりする機会を大切にする。

【中学校数学】

問題番号	正答率（%）			無回答率（%）	問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国	吉田町		
6(3)	35.8	45.4	44.6	36.3	手順にしたがってできたAとBについて、A－Bの値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する	統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる
7(2)	29.2	34.4	33.9	44.8	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる

問題番号7(2)

数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題

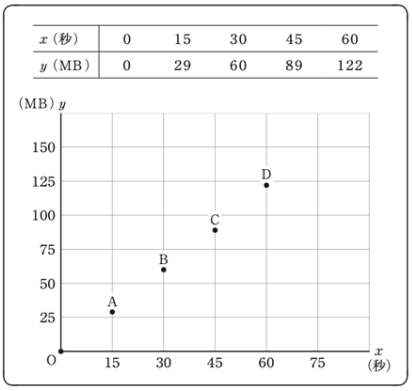
7 光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000MB（メガバイト）までにすることになっています。

そこで、動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ撮り方で時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間がx秒のときのデータ量をyMBとして、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



調べた結果

x（秒）	0	15	30	45	60
y（MB）	0	29	60	89	122

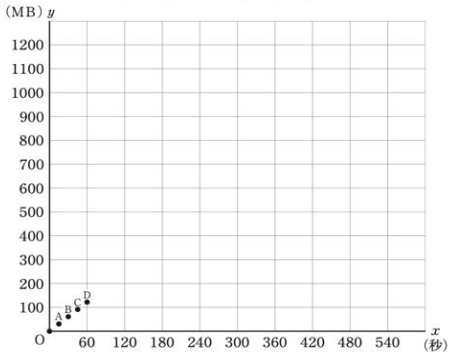


次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) **調べた結果**の表をみて、グラフの点Cの座標を書きなさい。

(2) 光希さんは、1000MBのデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの**調べた結果**を下のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフ



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が1000MBになるときの動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法を、x座標やy座標、xの値やyの値など、xやyを使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

【中学校数学：改善に向けて】

数の性質を文字式を用いて説明することや、表やグラフから数量の関係を捉え、問題の解決方法を説明することに課題が見られた。特に、説明を求める問題では、無回答数が多く、何に着目し、どのように考えを書けばよいかを理解できるようにすることが必要である。また、式やグラフの意味を理解し、根拠を示して筋道立てて説明する力を育むことが重要である。

そのため、具体的な数で確かめた性質を文字式で表したり、表・式・グラフを結び付けて数量の関係を考えたりする学習が大切となる。また、解決方法を伝え合い、なぜその方法で求められるのかを確かめることを通して、理解を深めていく。

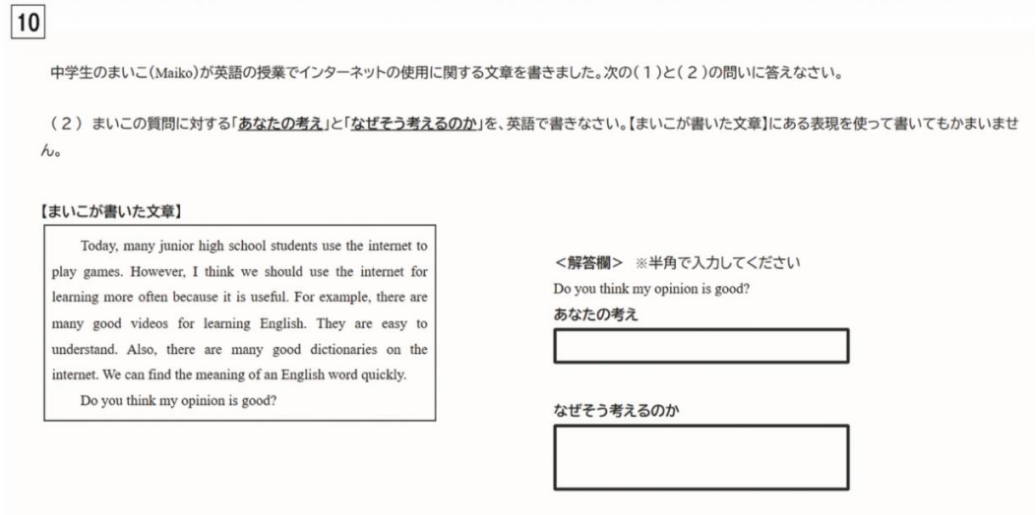
日常生活や社会の中にある数値やグラフに目を向け、それらを基に考えたり判断したりする機会を大切にし、数学を学ぶ意味やよさを実感できるようにする。

【中学校英語】

問題番号	正答率（%）			問題の概要	出題の趣旨
	吉田町	県	全国		
10(2)	17.1	30.7	27.8	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる
15 (2) a（問題の難易度４）	19.7	39.3	33.5	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる
18（問題の難易度５）	10.1	25.9	21.5	自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を１つ取り上げ、その理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる

問題番号１０(2)

社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる問題



10

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(１)と(２)の問いに答えなさい。

(２) まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

＜解答欄＞ ※半角で入力してください

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか

【中学校英語：改善に向けて】

読んだ内容について自分の考えと理由を書くことや、相手の質問に応じて話すこと、理由を添えてまとまりのある内容を話すことに課題が見られた。特に、難易度の高い「話すこと」の問題では、県との差が大きかった。学んだ語句や文法を使い、目的や場面に応じて自分の考えを伝える力を育むことが重要である。

そのため、聞いたり読んだりした内容を捉え、自分の考えと理由を整理して、話したり書いたりする学習が大切となる。また、CBT[4]による解答場面も踏まえ、端末で音声を聞いて答えたり、自分の発話を録音して聞き直したりする活動を取り入れ、内容や表現を改善する力を付けていく。

日常生活の中でも、身近な英語の表示や歌、動画などに触れたり、学んだ表現を使って伝えたりする機会を大切にし、英語で伝わる楽しさを実感できるようにする。

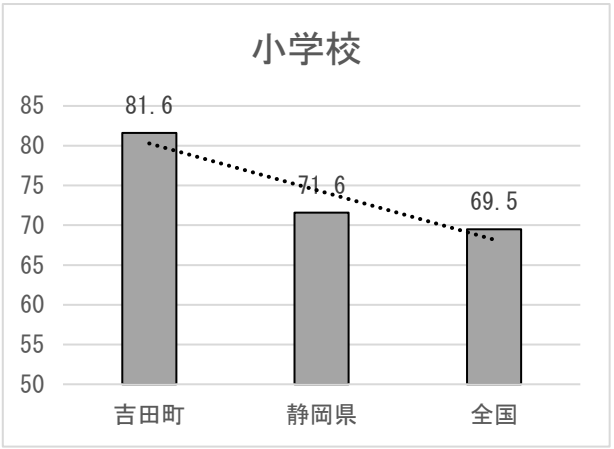
[4] CBT は、コンピューターを使って解答する調査方式。問題の難易度は５段階で示され、数字が大きいほど難しい。この結果だけで、調査方式が正答率に与えた影響を判断することはできない。

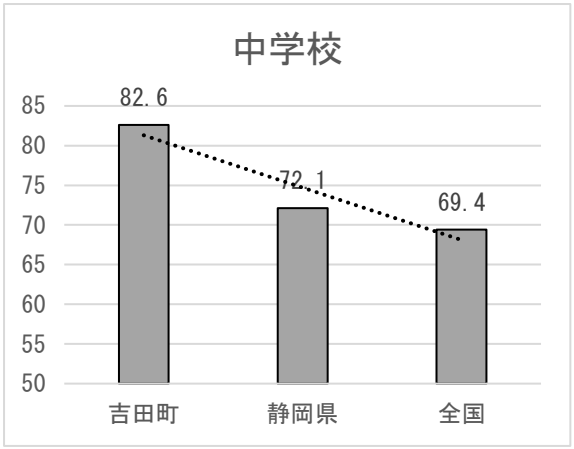
４　学習状況調査結果の概要

⑴　「ICT を活用した学び」「主体的に学ぶ姿勢」に関する項目

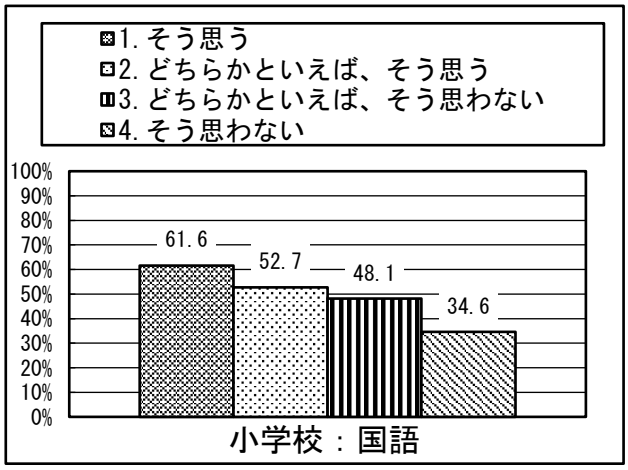
あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか

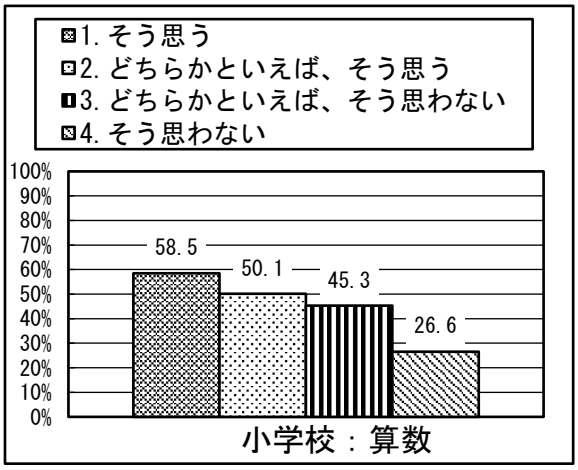
肯定回答（そう思う・どちらかというとそう思う）と答えた児童生徒の割合（%）

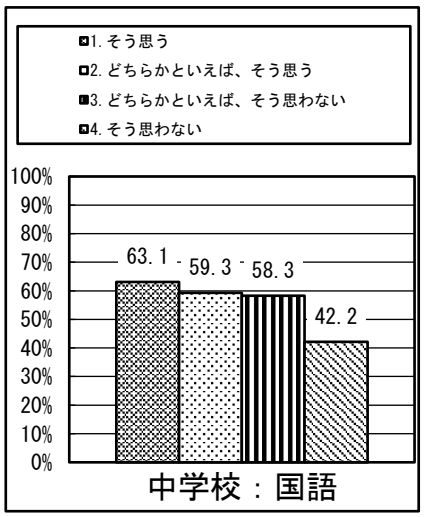


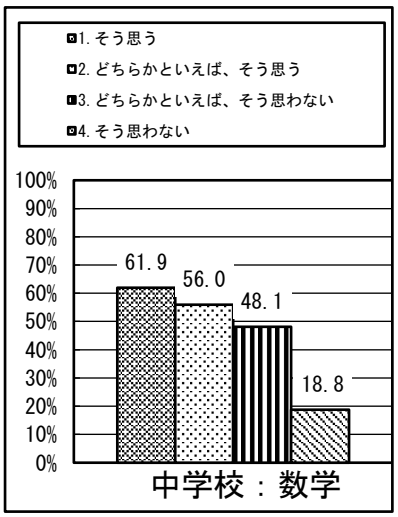


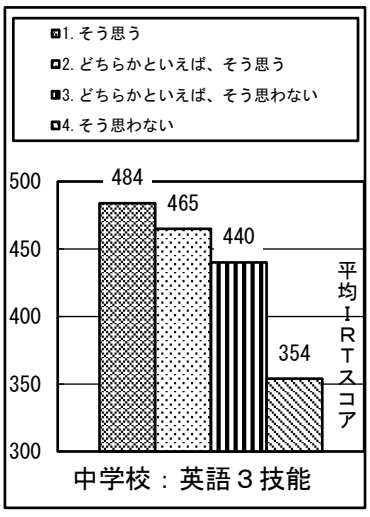
「教科に関する調査結果」（平均正答率等）と「質問調査結果」のクロス集計





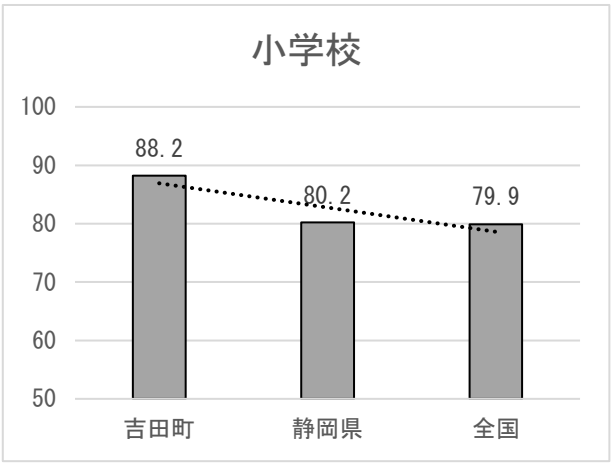


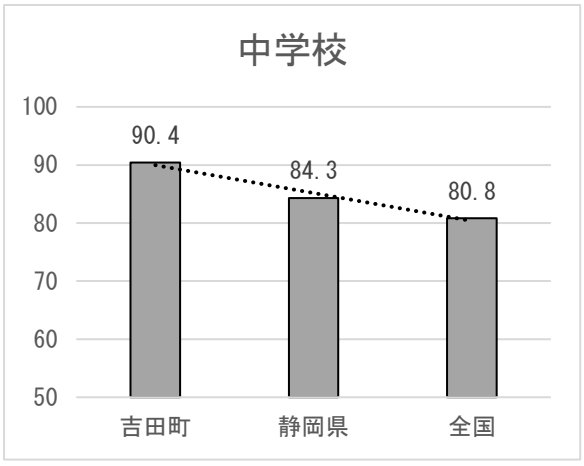




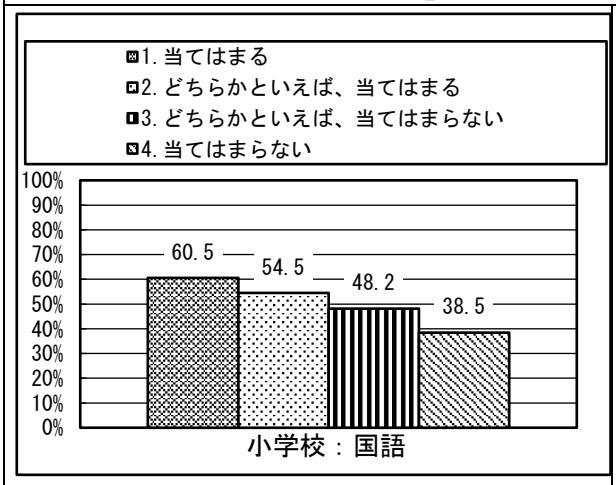
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

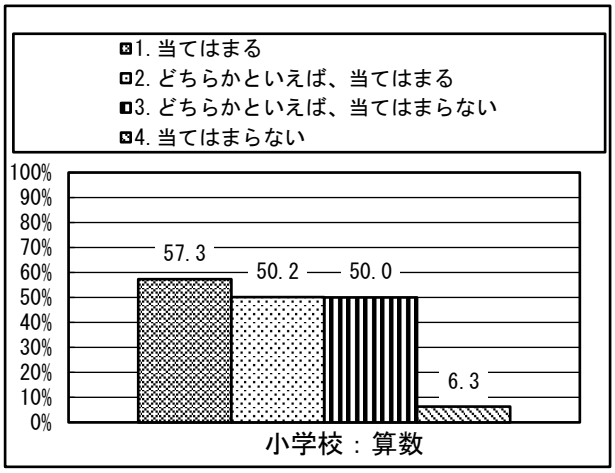
肯定回答（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）と答えた児童生徒の割合（%）

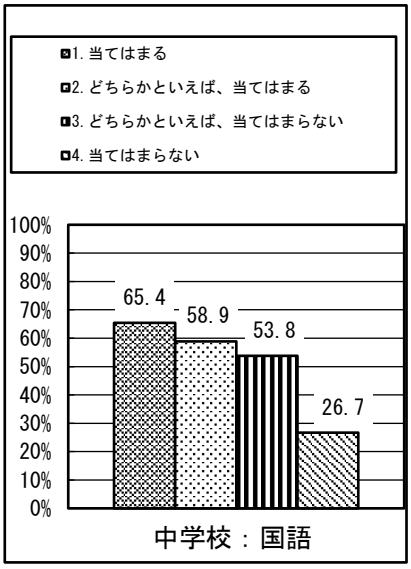


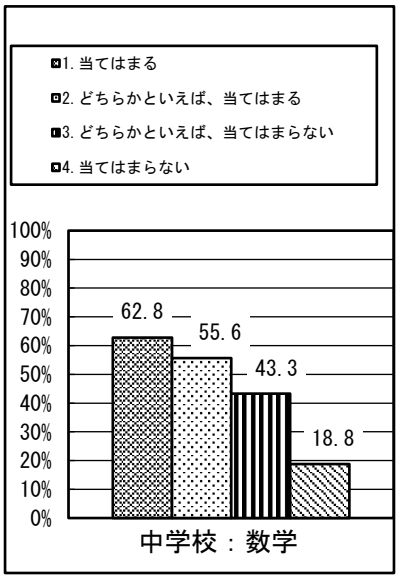


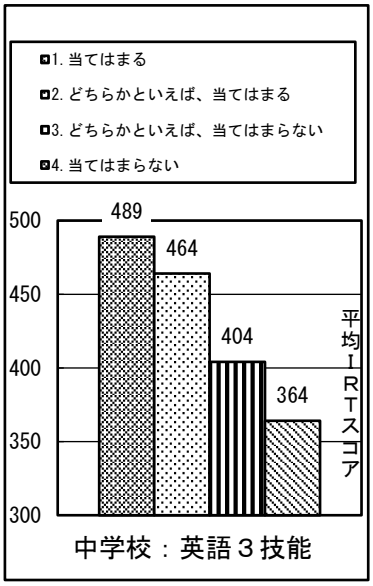
「教科に関する調査結果」（平均正答率等）と「質問調査結果」のクロス集計





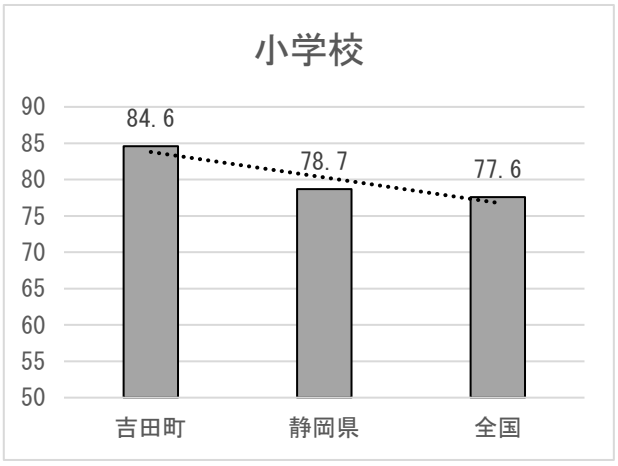


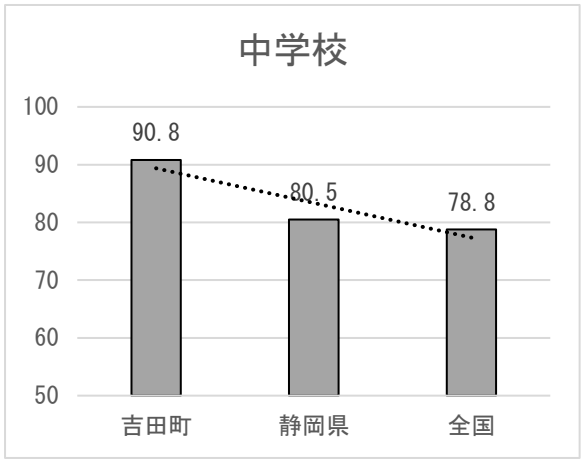




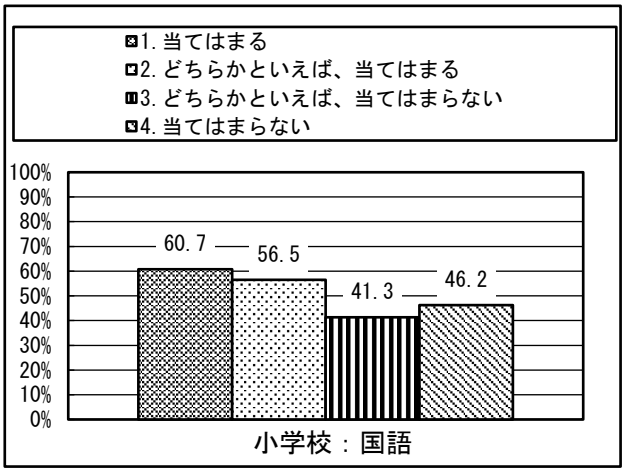
５年生（中学１・２年）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

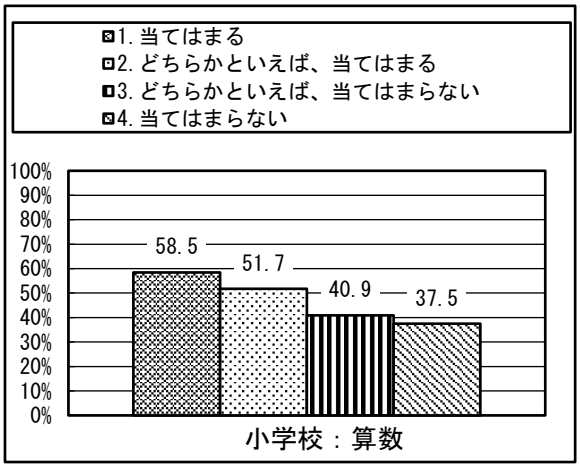
肯定回答（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）と答えた児童生徒の割合（%）

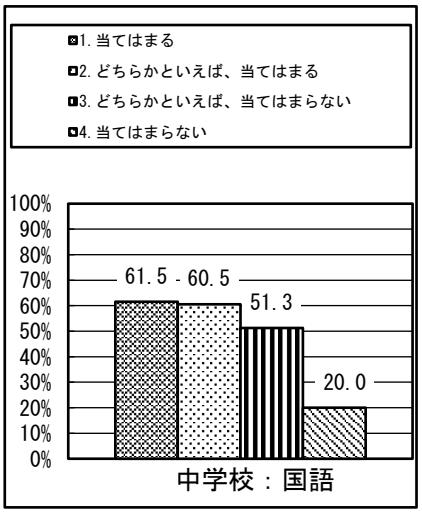


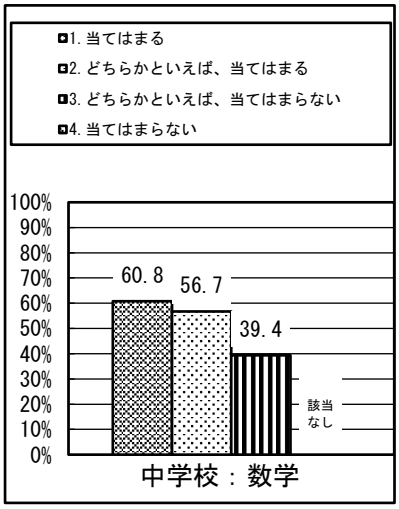


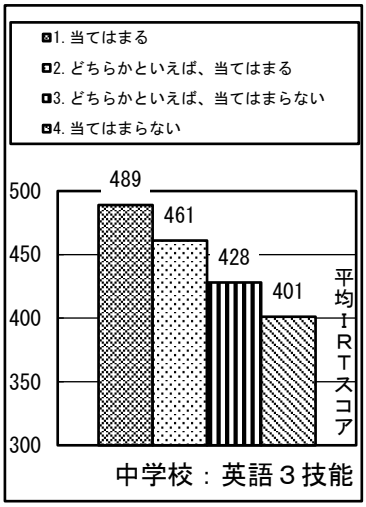
「教科に関する調査結果」（平均正答率等）と「質問調査結果」のクロス集計











次の三つの内容に関する質問では、肯定的に回答した児童生徒の割合が、小・中学校ともに県・全国を上回った。

①ICT 機器を使って情報を整理できると思うこと。

②自分で課題を立て、情報を集めて整理し、調べたことを発表する学習に取り組んでいること。

③課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだこと。

本町では、これらの質問に肯定的に回答した児童生徒の平均正答率等（中学校英語は平均 IRT スコア）が高い傾向が見られた。学習への取組や意識と、教科調査の結果との間に関連が見られる。町全体で進めてきた「児童生徒が自ら考え、ICT を活用して学ぶ授業づくり」が、学力の面でも良い方向につながりつつあることがうかがえる。

※ 平均正答率等は、国語・算数・数学の平均正答率と、英語の平均 IRT スコアを指す。この集計は回答と教科の結果との関連を示すものであり、特定の取組の効果や因果関係を直接示すものではない。

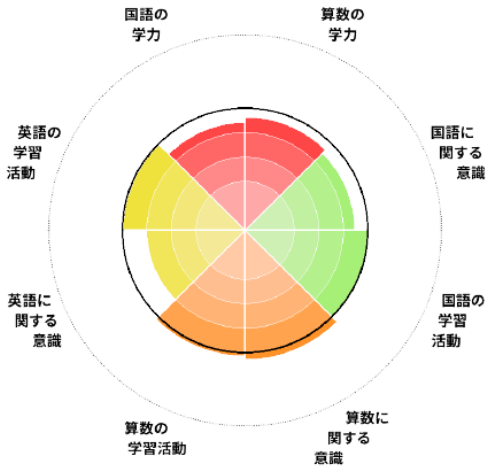
⑵ 結果チャート

※ 黒い実線の円は全国の基準を示す。色のついた部分が円の外側にある項目は全国基準を上回り、内側にある項目は下回っている。

【小学校】

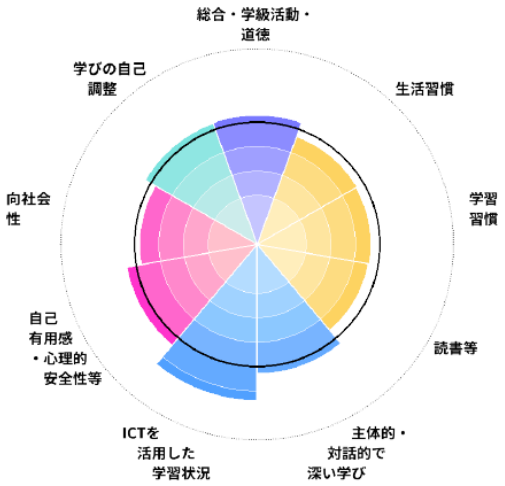
［教科を中心とした学力・学習状況］

（全国基準）



［その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）］

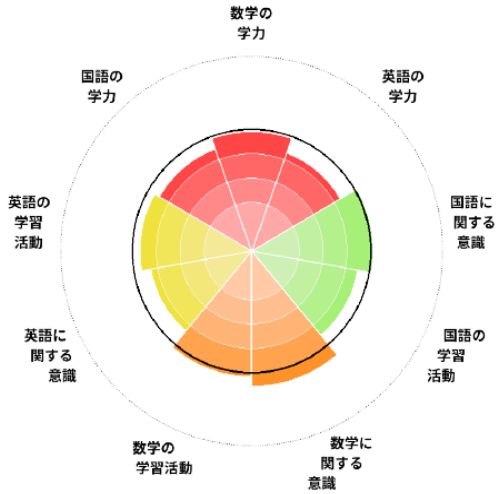
（全国基準）



【中学校】

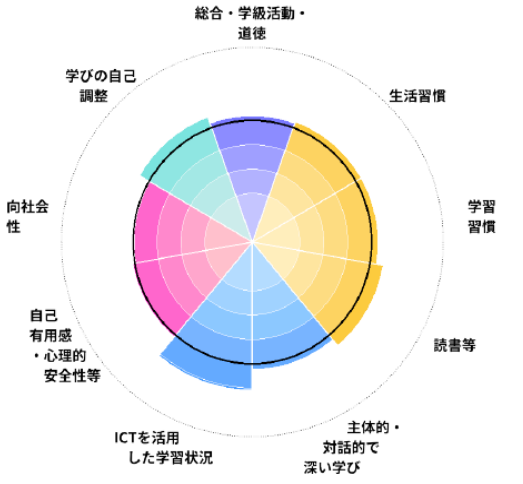
［教科を中心とした学力・学習状況］

（全国基準）



［その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）］

（全国基準）



結果チャートは、教科調査や質問調査の結果を項目ごとにまとめ、全国平均と比較したものである。

小・中学校ともに、「ICT を活用した学習状況」と「算数・数学に関する意識」が全国平均を上回った。

小学校では、「自己有用感・心理的安全性等」（人の役に立っているという実感や、安心して自分の考えを伝えられることなど）に良さが見られた。一方、「生活習慣」「学習習慣」「読書等」は全国平均を下回った。中学校では、「読書等」と「学びの自己調整」（自分の学習を振り返り、進め方を見直すこと）が全国平均を上回った。

教科の学力を示す項目や、国語・英語の学習に関する意識の項目は、全国平均を下回った。今後は、学習に前向きに取り組む姿勢を生かし、基礎的・基本的な知識や技能の定着と、それらを使って考え、説明する力の育成につなげていく。その際、一人一人が「分かった」「できた」「学ぶことが楽しい」と実感できる学習を大切にする。

また、生活・学習の習慣づくりや読書に親しむ機会についても、学校・家庭・地域で子供の様子を共有し、それぞれの立場から支えていくことが大切である。

５　これから身に付けていきたい力

今回の結果を踏まえ、自ら課題に取り組もうとする姿勢を生かしながら、各教科の基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付け、次の力を育てていく。

⑴　学んだことや情報を使い、根拠をもって考え、説明する力
　疑問や課題について、学んだ知識や必要な情報を使って考え、「なぜそうなるのか」「なぜそう考えたのか」を、言葉や図、式などで説明する力。

⑵　他者の考えと比べ、自分の考えや表現を再構成する力
　自分の考えを伝え合い、他者の意見や資料と比べて共通点や違いを捉え、考えを深めたり、相手に分かりやすく伝わるように説明や文章を見直したりする力。

⑶　自分の理解を確かめ、学び方を見直す力
　学習の目標に照らして、分かったことやまだ分からないことを確かめ、調べ直す、人に尋ねる、別の方法を試すなど、次の学習に生かす力。

６　家庭でもできそうなこと

子供たちの「考え、説明する力」は、日々の会話や生活の中でも育ちます。

・子供の意見に「どうしてそう思ったの？」と、理由を聞いてみる
・買い物や料理で、量や大きさを比べたり、見積もったりする
・ニュースや身近なグラフ・数値を話題にする
・一緒に本を読む、図書館を利用するなど、読書に親しむ
・家庭での学習時間や、睡眠などの生活リズムを整える　等

７　用語説明

※ 本資料で使用する主な用語について、内容の理解に必要な範囲で説明しています。

用語	意味・説明
情報活用能力	目的に応じて情報を集め、整理・分析し、問題の解決や自分の考えを伝えるために活用する力
探究的な学び	自ら問いや課題をもち、情報を集めて考えを深め、まとめ・表現しながら課題の解決に取り組む学び
学びの自己調整	学習の目標や自分の理解の状況を確かめ、学び方や進め方を見直すこと
クロス集計	複数の項目を組み合わせ、その関連を調べる集計。本資料では、質問への回答別に教科の調査結果を比較している
IRT スコア	問題の難しさなどを考慮し、解答の正誤の組合せから学力を推定した得点（正答率とは異なる）500 を基準にした得点
IRT バンド	IRT スコアを１～５の５段階に区切ったもの ３が基準のバンド、５が最も高いバンド

※ IRT バンドを IRT スコアに換算（およその対応関係）

IRT バンド	1	2	3	4	5
IRT スコア範囲	～350	350～450	450～550	550～650	650～